

世界遺産を掘る 第 9 回

一天龍寺一

（公財）京都市埋蔵文化財研究所 内田 好昭

はじめに

景勝地として著名な嵐山は京都を代表する観光スポットです。なかでも、大堰川^{おおい}と渡月橋を前景として対岸の山を臨む景観とともに、嵐山を代表する名所となっているのが天龍寺です。天龍寺は、室町幕府初代将軍の足利尊氏が、敵対した後醍醐天皇の冥福を祈るため夢窓疎石^{むそうそせき}の勧めに従い、貞和元年（1345）に創建した臨済宗の禅寺です。本日は、天龍寺の歴史を発掘調査の成果を通じて紹介していきます。

ところで、天龍寺のかつての寺域は現在を大きく上回り、その範囲は嵐山地区の全域を超え、北嵯峨方面にまで広がっていました。したがって、ここではこうした広範囲の発掘調査の成果を紹介していきます。また、嵐山には、鎌倉時代から南北朝時代にかけての上皇の御所「亀山殿」や平安時代に創建された檀林寺がありました。発掘調査では、これらの天龍寺以前の嵐山についての知見も得られていますので、こちらも紹介していきます。

1 嵐山・天龍寺地域の歴史と景観

平安時代の嵐山には「大井津」と呼ばれる港があり、丹波国から筏流しされた材木は、ここで荷揚げされ、陸路を平安京まで運ばれました。また、桓武以降の歴代天皇はたびたび「大堰」に行幸しています。とりわけ、嵯峨天皇（在位 809～823）は、現在の大覚寺の場所に離宮を作り（嵯峨院）、頻繁に大堰にも出向きました。嵯峨天皇の皇后である橘嘉智子は、現在の天龍寺付近に檀林寺^{だんりんじ}を創建しています。このように嵐山地区は平安時代前期から開発が行われ、自然の風光を残しつつ、ある程度の発展をみていたことが想像できます。

鎌倉時代の建長 7 年（1255）には、後嵯峨上皇が亀山殿を造営し、ここに移っています。亀山殿とその周囲の様子を描いた『山城国嵯峨亀山殿近辺屋敷地指図』（**図 2** 以下『亀山殿近辺指図』）によれば、亀山の麓に作られた亀山殿の周囲には、檀林寺の跡地に建てられたという浄金剛院などの御堂がありました。また、亀山殿の東側には、院の近臣たちの宿所や土倉（金融業者）などが見え、小規模ながら都市的な景観を見せていたようです。別の史料によれば、対岸の嵐山には吉野の桜が移植され、大堰川畔には^{さじきどの}棧敷殿という景色を楽しむ遊興施設が設けられていました。亀山殿は後嵯峨、亀山、後宇多各上皇の譲位後の御所として利用されました。

暦応 2 年（1339）、後醍醐天皇が亡くなると、足利尊氏はその慰霊のため、寺の創建を奏請し、翌暦応 3 年（1340）に亀山殿跡地に着工、貞和元年（1345）に落慶供養が行われました。天龍寺創建期の様子は『山城国嵯峨諸寺応永鈞命絵図』（**図 4** 以下『応永鈞命絵図』）に描かれていますが、驚かされるのは、その塔頭群の広がりです。西側は山並み、南は大堰川ですが、北は二尊院門前、東は車折神社近くまでの広がりを見せています。また、道路沿いには寺院の門を挟んで「在家」と記されており、屋敷や町屋が並んでいたことが想像できます。主要伽藍の配置はわかりませんが、大堰川沿いには風光を楽しむ施設と思われる「龍門亭」や鎮守である「^{れいひびょう}霊庇廟」が描かれています。天龍寺はたびたび火災に見舞われますが、とりわけ応仁の乱の兵火による応仁元年（1467）の火災により一帯が焼亡し、寺勢が衰える契機となりました。加えて、元治元年（1846）禁門の変後に長州軍の駐屯地となってい

た天龍寺を薩摩兵が追撃し、全山がことごとく灰燼^{かいじん}に帰しました。明治 10 年（1877）には、寺領の多くが上地され、現在の規模まで縮小しました。

2 発掘調査の成果

嵐山・天龍寺地域の主な発掘調査の成果を紹介していきます。

調査 3（**図 5**、**図 6**） 平安時代前期（9 世紀前半）の庭園跡を検出しました。庭園跡は苑池、州浜、景石跡などで、多くの平安時代前期の土器・瓦類が出土しました。土器類には二彩の壺、緑釉の水注・鉢・壺・盤などが含まれ、寺院に用いられる器形の構成となっています。隣接する調査 4－4 や調査 8 でも多量の平安時代前期の土器が見つかっています。歴代天皇の大堰離宮や「大井寺」に関連する遺構と思われます。ただし、後述するように、「大井寺」銘がある瓦は別の地点から出土しています。

調査 5（**図 7**） 元美空ひばり記念館があった場所での発掘調査です。調査区の北側で室町時代の幅 3～4 m、深さ 1.2 m ある堀跡を検出しました。敷地北側の東西道路が中世の道路を踏襲したものと考えられ、道路際に堀を設けていたと解釈できます。敷地内には礫をぎっしりと詰めた室町時代の地業（建物の基礎となる部分の地盤改良工事）跡が見つかっており、土蔵の基礎部分と推定されています。『応永鈞命絵図』には、在家と記される部分にあたります。

調査 7（**図 8**） 天龍寺門前の現存盛土の年代や性格を知るために試掘坑を設けました。この盛土は『応永鈞命絵図』にも描かれているものです。調査の結果、盛土の上半分は江戸時代に積み直されたものでしたが、下半は室町時代の構築になるものであることがわかりました。

調査 8（**図 9**、**図 10**） 現在、小倉百人一首殿堂時雨殿が建っている場所での発掘調査です。禁門の変の兵火で焼かれた塔頭三秀院の遺構の下層に、亀山殿期の庭園遺構を検出しました。庭園遺構は景石や小礫敷の化粧からなるものです。庭園遺構の東側は斜面を介してやや高くなっており、斜面には^{あずまや}四阿風の建物跡も見つかっています。

調査 9（**図 11**、**図 12**） 室町時代の直径 2 m を超える巨大な柱穴とそれに取りつく小柱穴列を検出しました。『山城国臨川寺領大井郷界畔絵図』（**図 3** 以下『臨川寺領絵図』）や『応永鈞命絵図』のこの場所に描かれた霊庇廟の鳥居とそれに取りつく柵の遺構と思われます。亀山殿期の遺構では、東西 34m 以上、南北 15 m 以上ある大型の建物基礎地業が見つかっています。亀山殿の殿舎で大堰川畔に建てられたとされる棧敷殿の跡と推定できます。

調査 11(**図 13**) 室町時代の幅 2 m 以上ある南北溝を検出しました。『臨川領絵図』や『応永鈞命絵図』では、かつて大堰川の堰部分にあった渡月橋から天龍寺の南門にいたる道路の西端付近にあたるので、この道路の西側溝にあたるものと思われます。この道路は、亀山殿の「惣門前路」を踏襲するものだと思われます。

調査 14（**図 14**、**図 15**） 室町時代の南北方向・東西方向にいくつか堀の跡を検出しました。清凉寺から南に延びる道を『亀山殿指図』は「朱雀大路」、『臨川寺領絵図』は「出釈迦大路」と記していますが、この道沿いに展開する「在家」の堀、もしくは『臨川寺領絵図』にみえる「天龍寺延寿堂」の出入り口となる通路部分の遺構と思われます。道路から約 20 m 奥に道路と並行する南北の堀が延びていますが、これより西側が天龍寺の敷地内となるのでしょうか。また、この調査では平安時代前期の遺構群が検出され、9 世紀の土器や瓦が出土しています。出土した瓦の中には「大井寺」銘を有する軒平瓦が多く含まれます。同様の瓦は天龍寺境内の立会調査（調査 4－1～3）でも出土していますが、この範囲は橘嘉智子の「檀林寺」の推定範囲と考えるのが妥当です。「大井寺」と「檀林寺」の関係はよくわかりません。

調査 16（**図 16**、**図 17**） 二尊院の北側で行った発掘調査です。中世嵯峨の都市域の北辺付近となります。この場所は『応永鈞命絵図』では「香厳院」と記されています。香厳院は、室町幕府 2 代将軍

表 1 天龍寺・嵐山地区年表

西 暦	和 暦	できごと
792	延暦 11	4.2 この時、「大井寺」が存在。
795	延暦 14	6.27 桓武天皇、大堰に行幸。以後も歴代天皇、たびたび大堰に行幸。
803	延暦 22	8.27 桓武天皇、皇子伊予親王の「大井荘」を訪れる。
834～848	承和年中	道昌が大堰川の堰を改修。
834	承和 1	8.9 嵯峨上皇、檀林太皇太后、嵯峨院に遷御。
836	承和 3	閏 5.14 造檀林寺主典秦忌寸家継に朝原宿祢の賜姓がある。この頃、橘嘉智子（檀林皇后）、檀林寺造営開始か。
842	承和 9	7 嵯峨上皇、嵯峨院で崩御。
		6.1 造大井寺使の使員を定める。判官 2 人、主典 2 人、任期は 4 年。
850	嘉祥 3	5.5 橘嘉智子（檀林皇后）、崩御。
		12.11 大覚寺が嵯峨天皇、檀林皇后、正子内親王の陵と檀林寺管理を命ぜられる。
887	仁和 3	修理大井堰使が置かれる。
907	延喜 7	9.10 宇多法皇、大堰に行幸。紀貫之『大堰川行幸和歌序』。
10 世紀中頃		後撰和歌集に大井川詠まれる。酒を飲み、篝火のある船を浮かべる。
999	長保 1	9.12 藤原道長、大覚寺、棲霞観にゆき、そこから大堰川畔に紅葉を訪ねる。
11 世紀初		拾遺和歌集に大井川の筏が読まれる。
11 世紀中		赤染衛門、荒廃した檀林寺を歌に詠む。
1180 年頃		梁塵秘抄に大堰川のあたりの遊興が歌うものがある。
1207	建永 2	8.16 『山城国嵯峨舎那院領絵図』に嵯峨・嵐山近辺の風景が描かれる。
1255	建長 7	10.27 亀山殿が完成し、後嵯峨院が移徒。
1256	康元 1	亀山殿に女房一品堂、浄金剛院供養。
1257	正嘉 1	亀山殿に浄金剛院惣社、遷宮。
1258	正嘉 2	亀山殿に御持仏堂（大多勝院）、供養。
1272	文永 9	2.7 後嵯峨上皇、亀山殿如来寿量院で崩御。
1335	建武 2	臨川寺、夢窓疎石を開山として創建。
1339	暦応 2	8.16 後醍醐天皇、崩御。
		10.5 足利尊氏・直義、後醍醐天皇慰霊のため亀山殿跡地を禅寺とする旨奏請。
1349	暦王 3	4.21 天龍寺造営開始。
1344	康永 3	1 霊庇廟造営。
1345	貞和 1	8.29 天龍寺、落慶供養。
1347	貞和 3	『山城国臨川寺領大井郷界畔絵図』が描かれる。
1358	正平 13	1.4 天龍寺焼亡
1361	正平 16	10.27 臨川寺、炎上
1367	正平 22	3 高麗使、来朝し、天龍寺に逗留
1373	応安 6	9.28 天龍寺、炎上。
1426	応永 33	9 『山城国嵯峨諸寺応永鈞命絵図』が描かれる。
1447	文安 4	7.5 天龍寺、炎上。
1467	応仁 1	10 応仁の乱の兵火により天龍寺炎上。
1468	応仁 2	9.7 応仁の乱の兵火により、天龍寺、臨川寺、大覚寺など炎上。
1864	元治 1	7.20 禁門の変の後、天龍寺が薩摩軍により、焼き払われる。

足利義詮の正室渋川幸子の香火所です。発掘調査では、敷地の西奥の山裾部分で、雨落ち溝で囲われた建物基壇の盛上りとその上に礎石の据え付け穴を検出しました。雨落ち溝は大量の瓦で埋まっていた。香巖院の建物構成などはわかっていませんが、本堂や方丈のような主要建物の遺構と思われる。

調査 18 (図 18) 京福電鉄嵐山駅前で行った発掘調査です。ここでは、室町時代の「出釈迦大路」の東端に側溝のように延びる水路の跡を検出しました。この水路は『臨川寺領絵図』や『応永鈞命絵図』に描かれているものです。この水路は、幅約 3 m、深さ約 1.5 m ありましたが、この下層に鎌倉時代の水路が重なっていることも判明しています。こちらは幅 6 m を超えるより規模が大きいもので、亀山殿期の「朱雀大路」の西側水路と推定できます。天龍寺期に水路幅を狭め、道路幅を広げたものでしょう。この遺構の発見により、「朱雀大路」「出釈迦大路」の幅は、水路外側で約 28 m あることが分かりました。

調査 20 (図 19) 臨川寺西側の駐車場で行った発掘調査です。この調査では、室町時代の臨川寺の南門とその内側に放生池と思われる遺構を検出しています。

おわりに

天龍寺境内での発掘調査はあまり進んでいませんが、以上に述べたように、その周囲の状況や亀山殿や檀林寺などの前史についての知見が蓄積されてきています。

嵐山は京都有数の観光地ですので、ホテルや料亭、商業施設などの開発も盛んです。しかし、この地域は国指定の史跡・名勝嵐山の範囲に含まれるので、ここで紹介した遺構の大半は、壊されずに建物の地下に保存されていることも付け加えておきます。

< 参考文献 >

天龍寺・嵐山地区の歴史については、

- ・京都市編『史料 京都の歴史』第 14 巻 右京区、平凡社、1994 年
- ・水上勉他『古寺巡礼 京都 4 天龍寺』淡交社、1976 年

嵯峨・嵐山地区の都市的発展については、

- ・高橋康夫「室町時代の京都」京都文化博物館編『京都・激動の中世』1996 年、150～155 頁
- ・原田正俊「中世の嵯峨と天龍寺」浄土真宗教学研究所・本願寺史料研究所編『講座蓮如』第 4 巻、1997 年、79～112 頁
- ・大村拓生「嵯峨と大堰川交通」『中世京都首都論』吉川弘文館、2006 年、193～228 頁
- ・山田邦和「中世都市京都の変容」『京都都市史の研究』吉川弘文館、2009 年、171～198 頁

亀山殿については、

- ・川上貢「亀山殿の考察」『日本中世住宅の研究〔新訂〕』中央公論美術出版、2002 年、119～137 頁

表2 天龍寺・嵐山地区発掘調査一覧表

番号	調査地点	調査年月	主な成果	文献
調査1	右京区嵯峨天龍寺造道町30-11	1977年2～4月	平安時代前期～室町時代の遺構遺物検出	吉川義彦・石井望・中村敦『臨川寺旧境内遺跡発掘調査報告』京都市埋蔵文化財研究所調査報告Ⅳ、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、1978年
調査2	右京区嵯峨天龍寺立石町1-14	1977年8月	平安～室町時代の瓦類出土	鈴木久男「檀林寺跡」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『京都嵯峨野の遺跡』1997年、152頁
調査3	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町33	1989年2～5月	平安時代の庭園跡検出	木下保明「史跡名勝嵐山」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『昭和63年度度京都市埋蔵文化財調査概要』1993年、106～108頁
調査4	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町 天龍寺境内	1991年12月～1992年2月	平安時代前期～室町時代の遺構遺物検出	小椋山一良「史跡特別名勝天龍寺庭園・史跡名勝嵐山2」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『平成3年度度京都市埋蔵文化財調査概要』1995年、94～97頁 財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『京都嵯峨野の遺跡』1997年
調査5	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-25ほか	1992年9月～1993年2月	鎌倉～室町時代の地業跡、堀跡等を検出	久世康博「史跡名勝嵐山」財団法人京都市埋蔵文化財研究所編『平成4年度度京都市埋蔵文化財調査概要』1995年、69～72頁
調査6	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-33ほか	2002年8月	室町時代の石組溝検出	菅田薫・吉本健吾『史跡名勝嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査概報2002-10、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2002年
調査7	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町68 天龍寺境内	2004年2～3月	東門正面の土壇が室町時代のものであることを確認	丸川義広『史跡・特別名勝 天龍寺庭園 整備事業に伴う埋蔵文化財確認調査終了報告書』*未刊行内部資料
調査8	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町11	2004年6～9月	平安時代前期の遺物多量に出土、亀山殿期の庭園跡を検出、室町時代の遺構群を検出	内田好昭『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査概報2004-7、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2004年
調査9	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町7	2004年7～11月	亀山殿の棧敷殿跡と思われる地業を検出、天龍寺鎮守の霊庇廟関連の遺構を検出	本弥八郎・布川豊治・嵯峨井建『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査概報2004-11、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2005年
調査10	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町10-1ほか	2004年10～11月	室町時代の堀跡を検出	平尾政幸「史跡・名勝嵐山」京都市文化市民局編『京都市内遺跡発掘調査概報 平成16年度』2005年
調査11	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3	2006年3～9月	室町時代の堀を検出	小椋山一良『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2006-9、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2006年
調査12	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町3-15	2006年8～10月	鎌倉～室町時代の遺構群を検出、堀の基礎地業と思われるものあり	小椋山一良・能芝妙子『史跡・名勝 嵐山 建物建築工事に伴う埋蔵文化財試掘調査終了報告書』*未刊行内部資料
調査13	右京区嵯峨天龍寺造路町33	2009年8月～9月	平安時代前期の包含層、臨川寺創建時の整地層を確認	東洋一『史跡・名勝嵐山（臨川寺境内）渡月橋PROJECTに伴う埋蔵文化財確認調査終了報告書』*未刊行内部資料
調査14	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町17ほか	2011年9月～2012年6月	平安時代前期の瓦廃棄土坑、室町時代の堀跡等を検出	小松武彦『史跡・名勝 嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2012-3、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2012年
調査15	右京区嵯峨天龍寺造路町	2012年3～4月	臨川寺の北西隅を示す遺構を検出	東洋一『史跡・名勝嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2012-1、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2012年
調査16	右京区嵯峨二尊院門前往生院町	2012年6～8月	天龍寺塔頭香蔵院の建物遺構を検出	東洋一『史跡・名勝嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2012-7、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2012年
調査17	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町12-1	2012年12月～2013年12月	平安時代前期の遺物、亀山殿期の溝、室町時代の遺構等を検出	近藤奈央『史跡・名勝嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2013-17、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2015年
調査18	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町	2012年12月～2013年1月	鎌倉時代～室町時代の道路脇水路を確認	尾藤徳行『史跡・名勝嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2012-16、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2013年
調査19	右京区嵯峨天龍寺芒ノ馬場町40-8ほか	2013年1～3月	室町時代の整地層、溝などを確認	布川豊治『史跡・名勝嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2012-22、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2013年
調査20	右京区嵯峨天龍寺造路町33	2014年6～8月	室町時代前期の臨川寺の南門跡、放生池の可能性のある遺構を検出	津々池惣一・東洋一『史跡・名勝嵐山』京都市埋蔵文化財発掘調査報告2014-7、財団法人京都市埋蔵文化財研究所、2015年

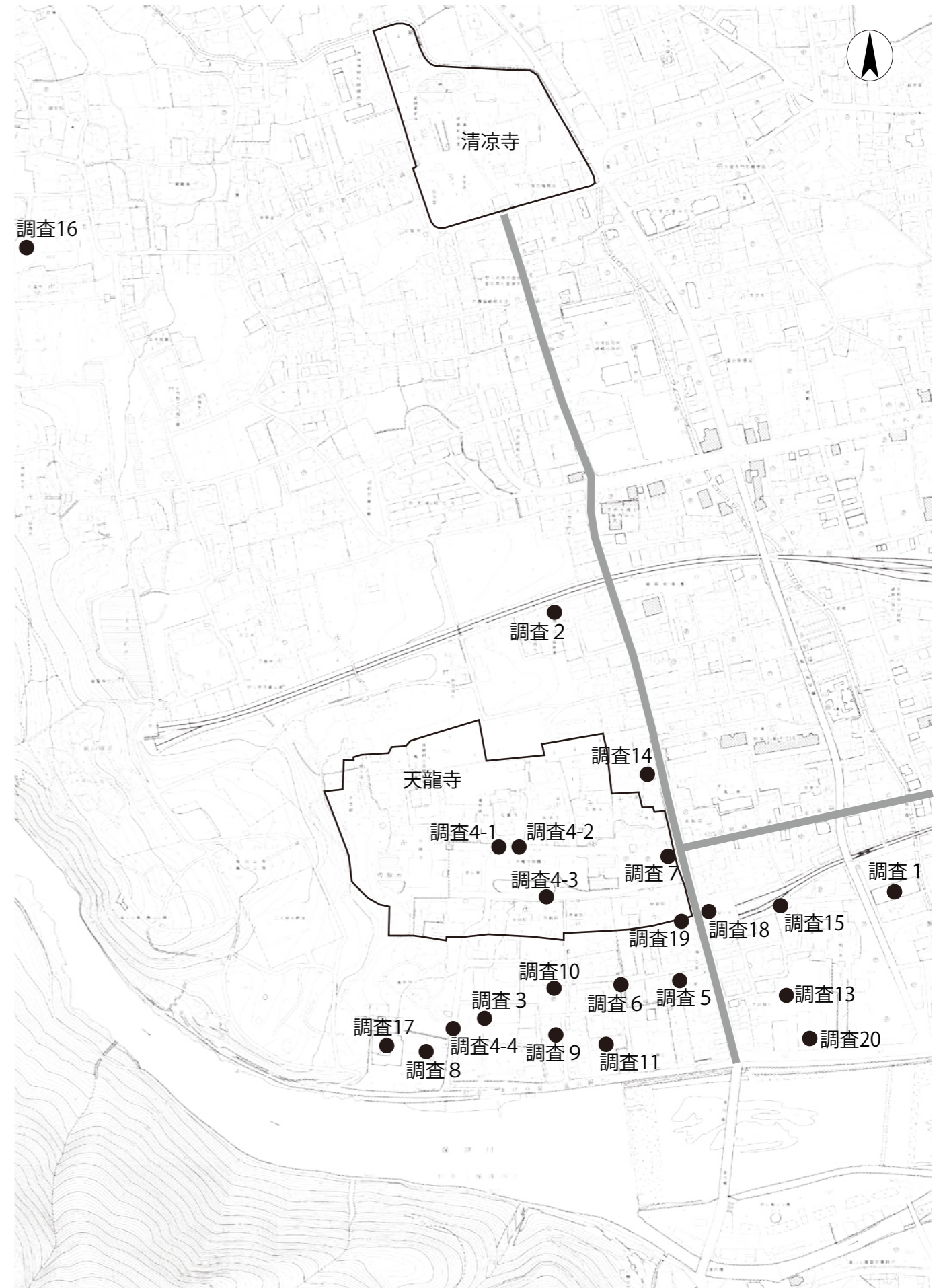


図1 調査地点図(1:3000)

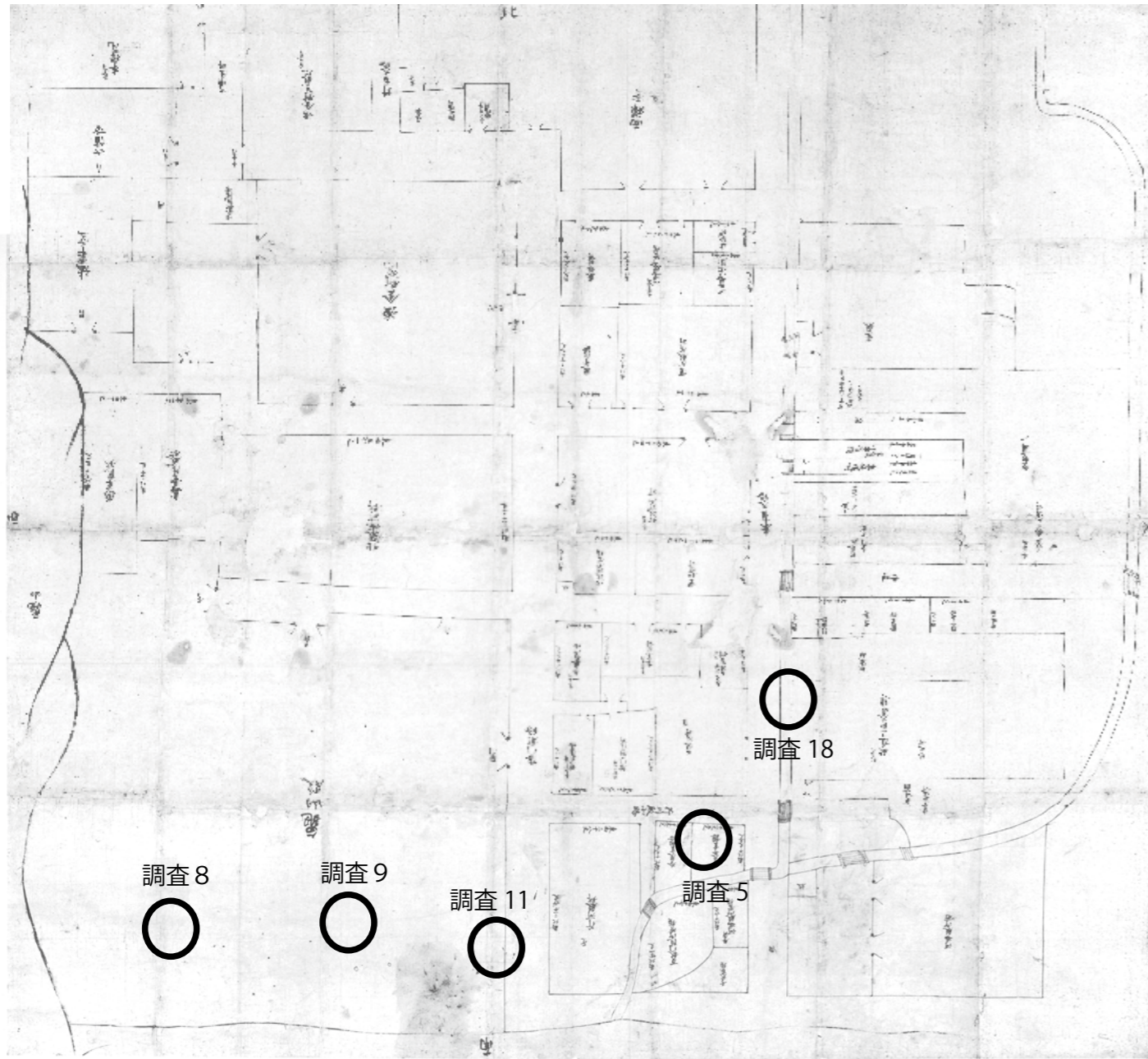


図2 『山城国嵯峨龜山殿近辺屋敷地指図』(天龍寺蔵、加筆)

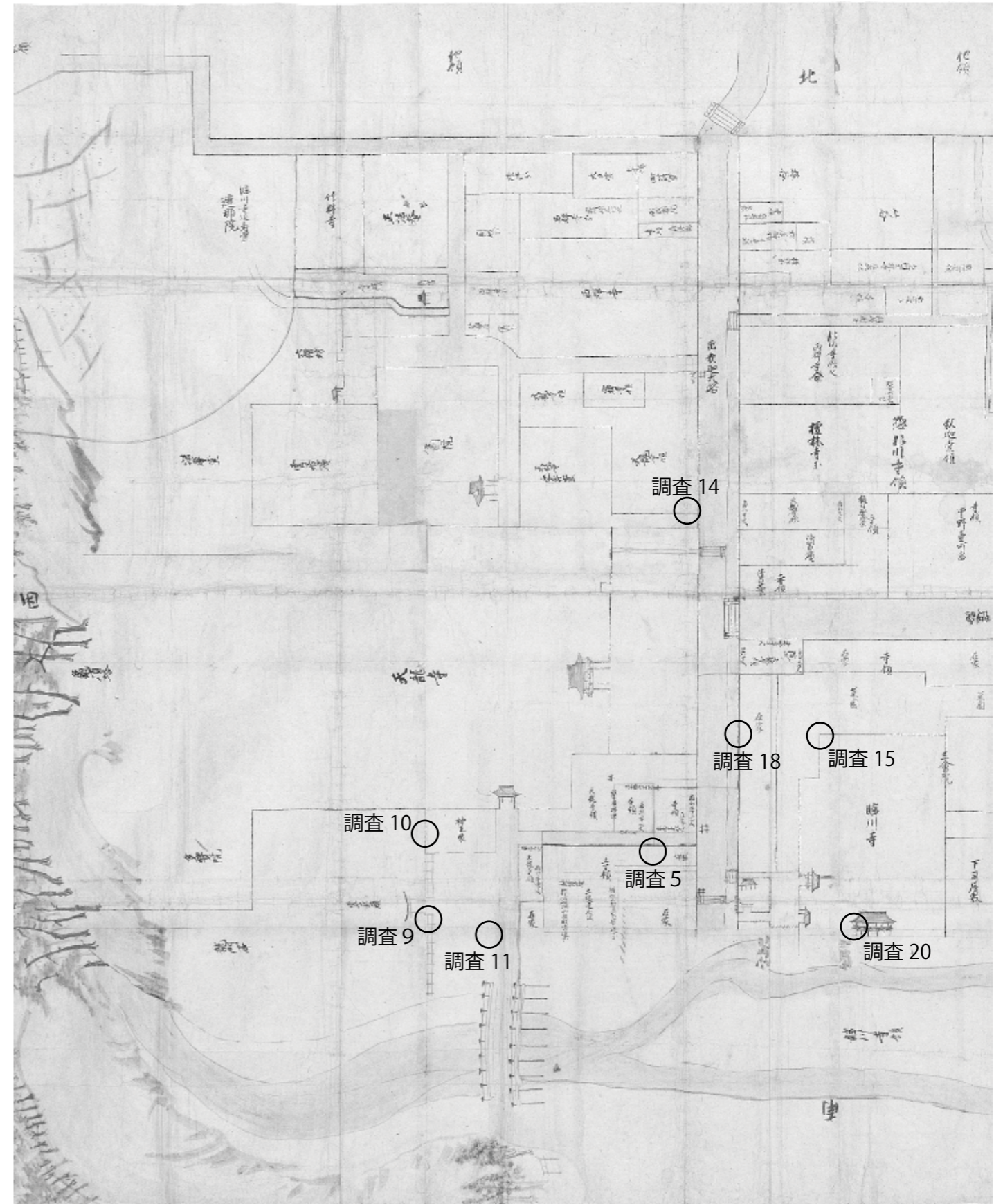


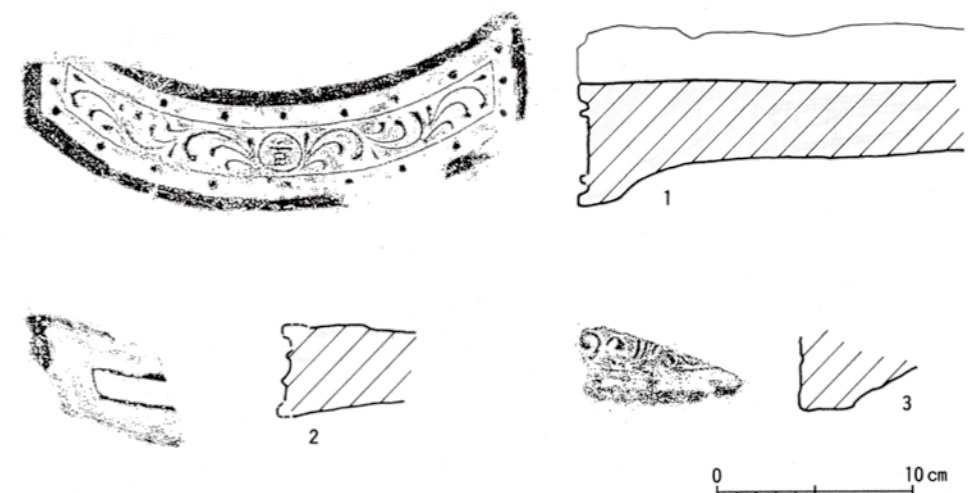
図3 『山城国臨川寺領大井郷界畔絵図』(天龍寺蔵、加筆)



図4 『山城国嵯峨諸寺応永鈞命絵図』(天龍寺蔵、加筆)



図5 調査3遺構平面図



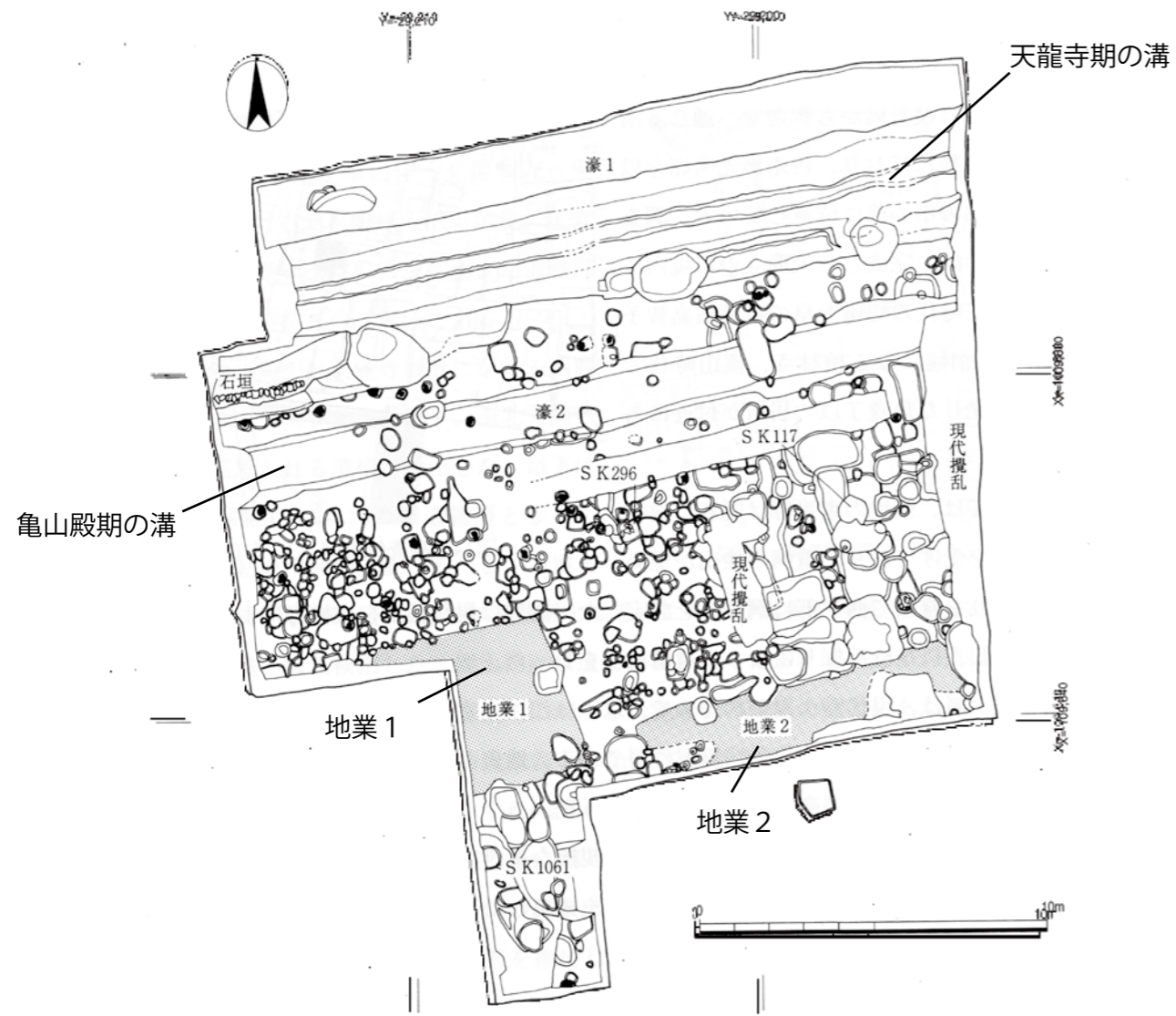


図7 調査5遺構平面図

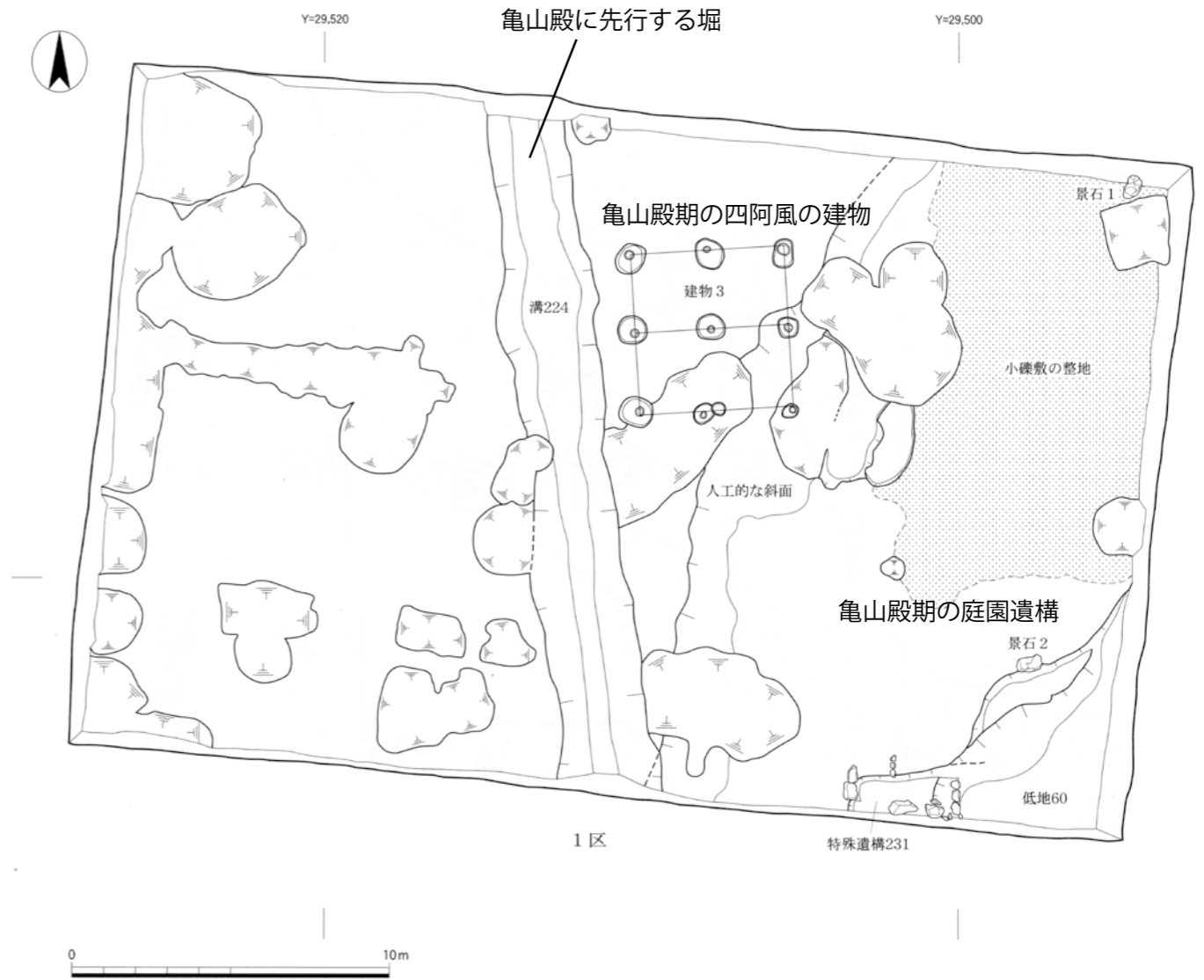


図9 調査8遺構平面図

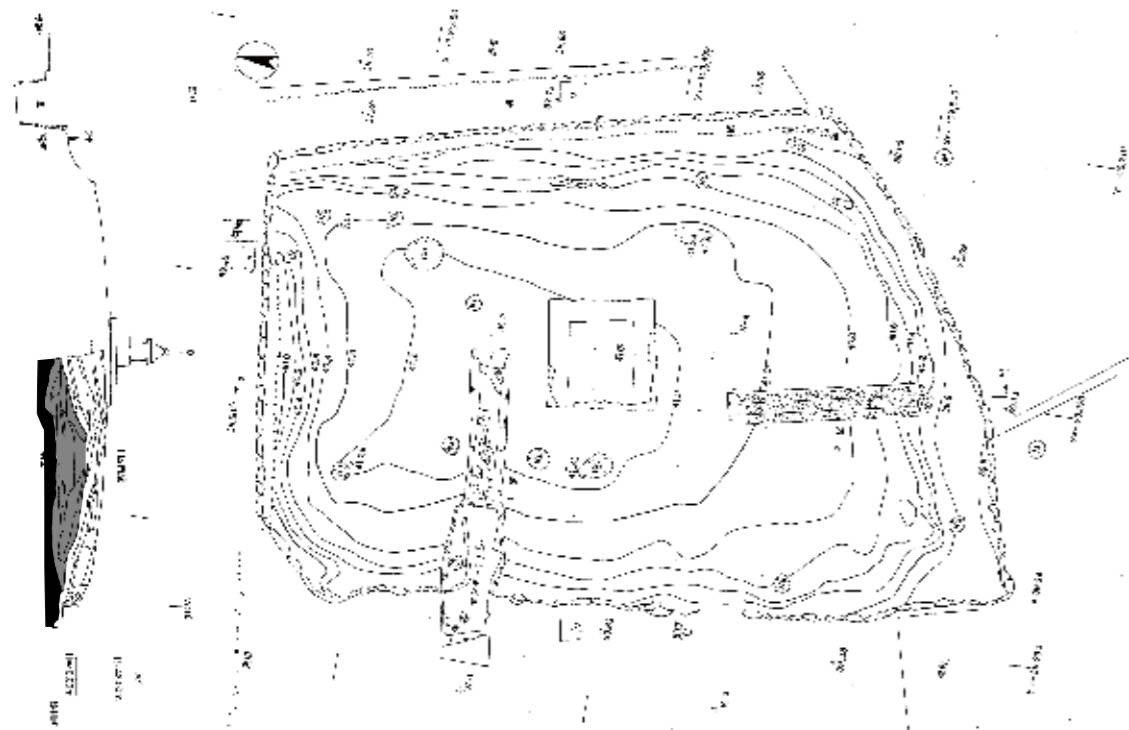


図8 調査7平面図・断面図

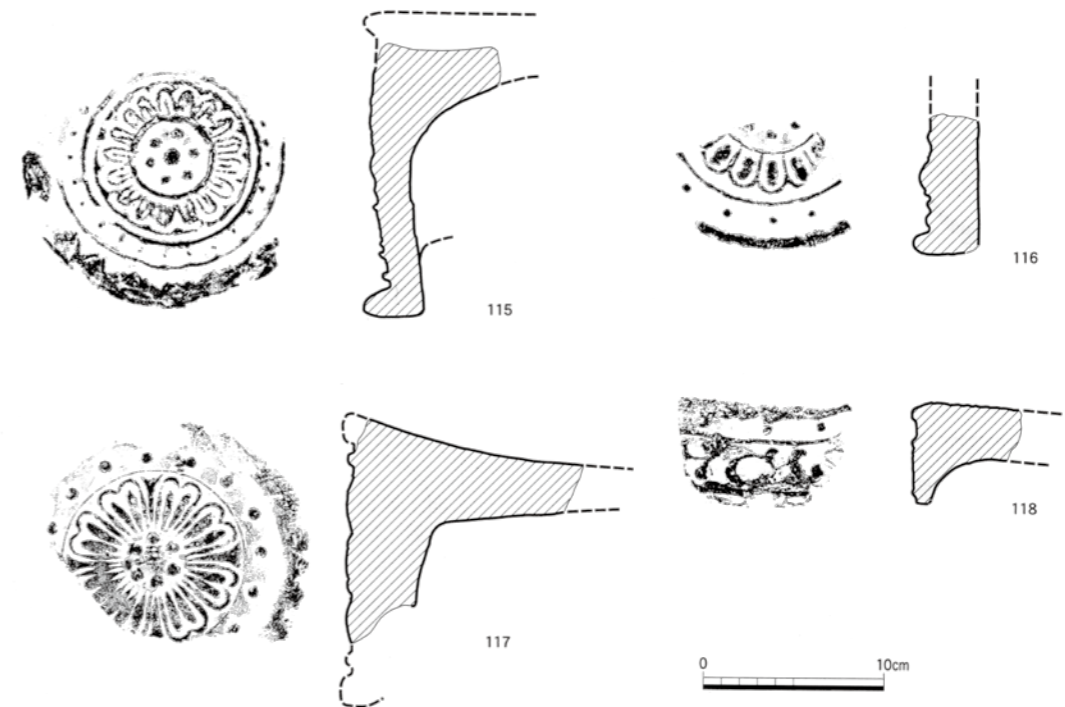


図10 調査8出土平安時代軒瓦拓影・実測図 (1:4)

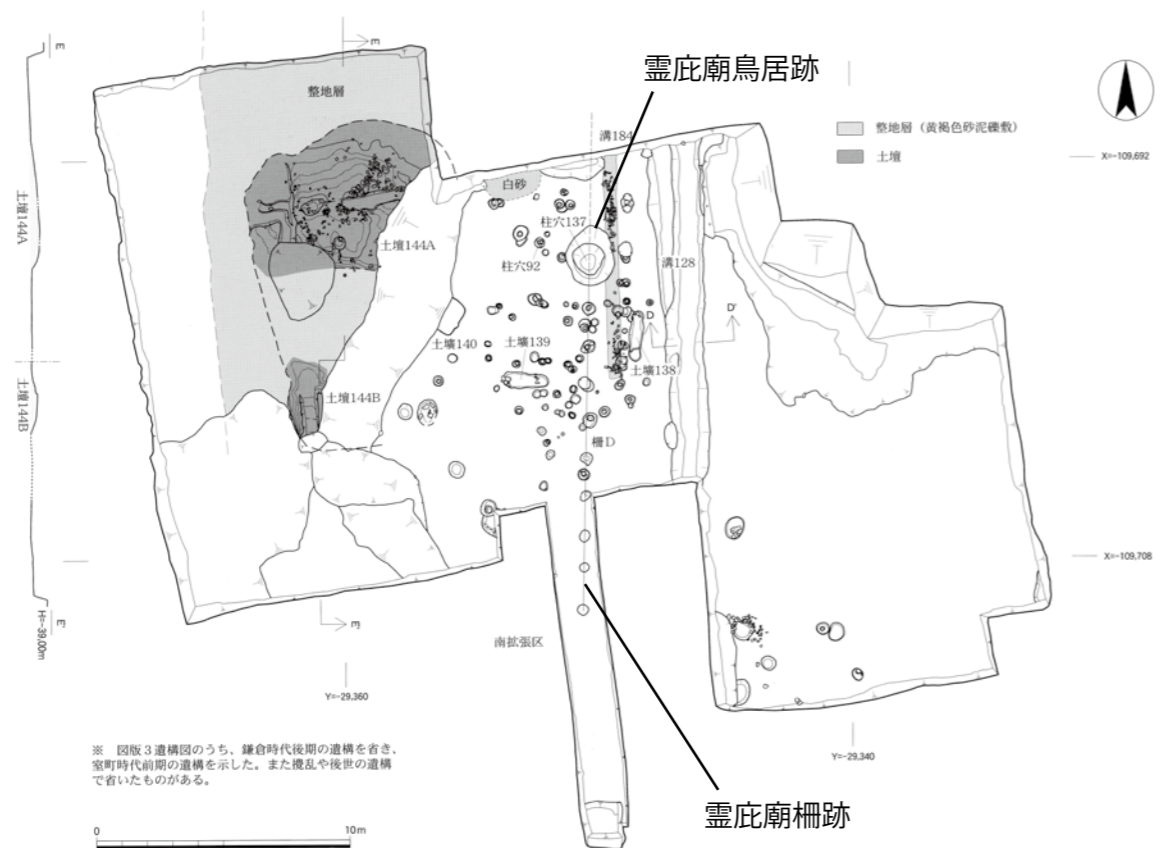


図 11 調査 9 天龍寺期遺構平面図

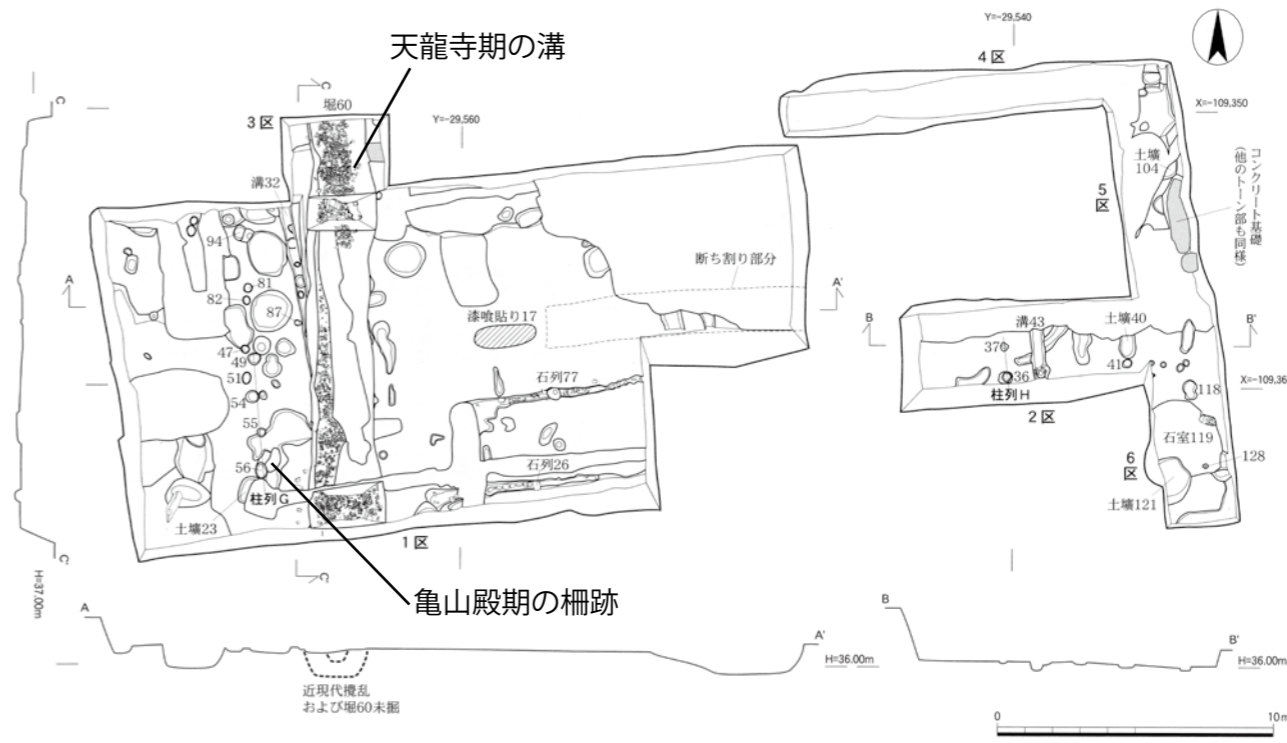


図 13 調査 11 遺構平面図

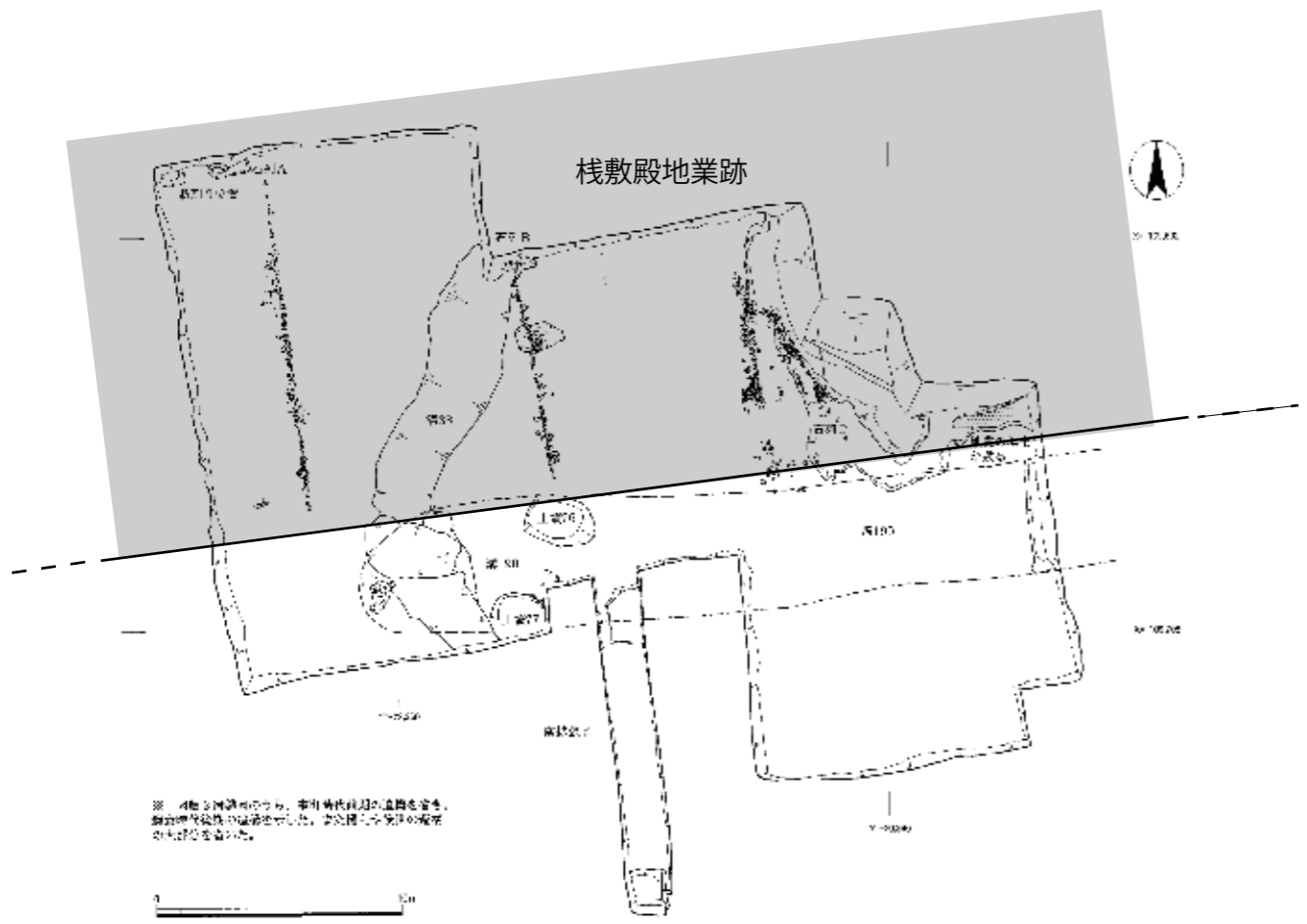


図 12 調査 9 亀山殿期遺構平面図

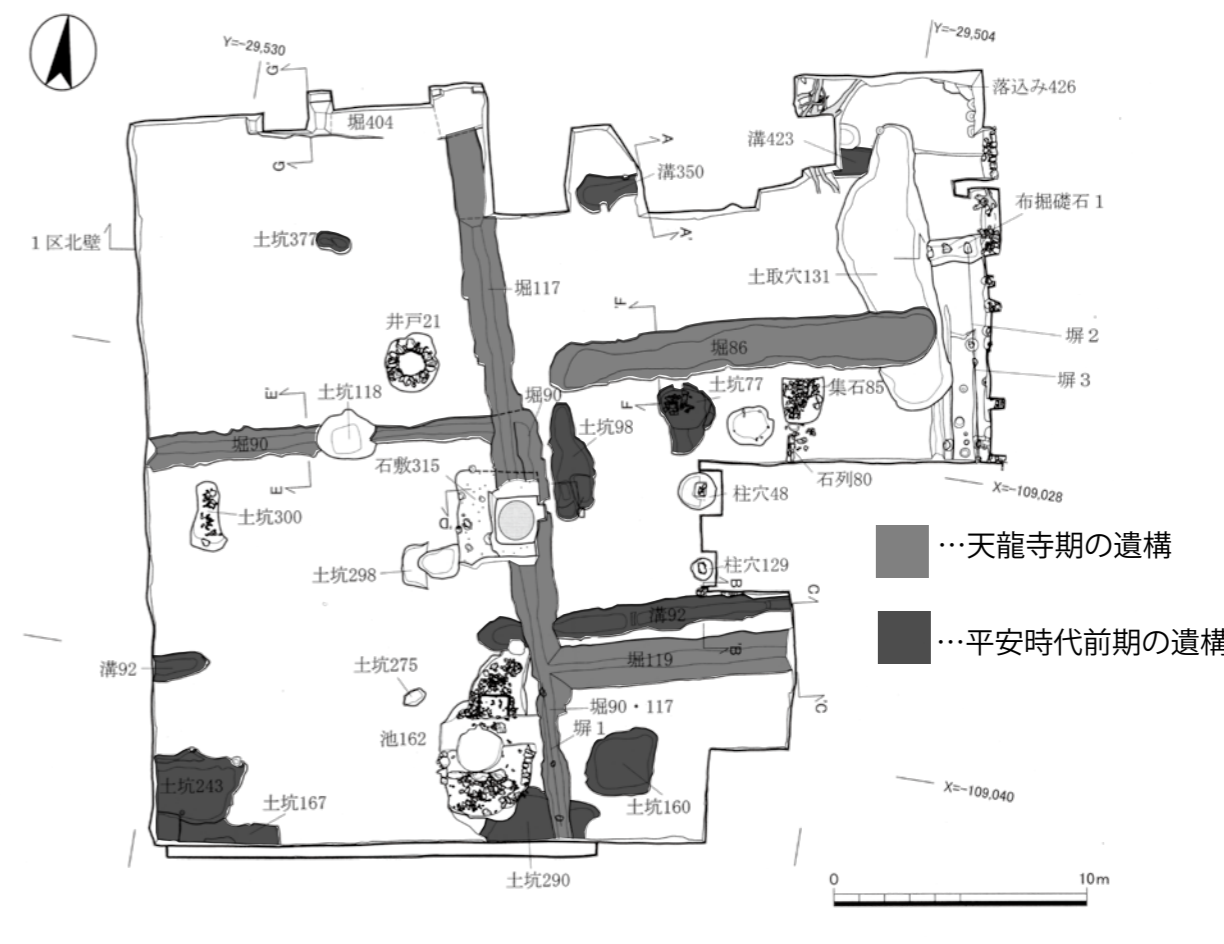


図 14 調査 14 遺構平面図

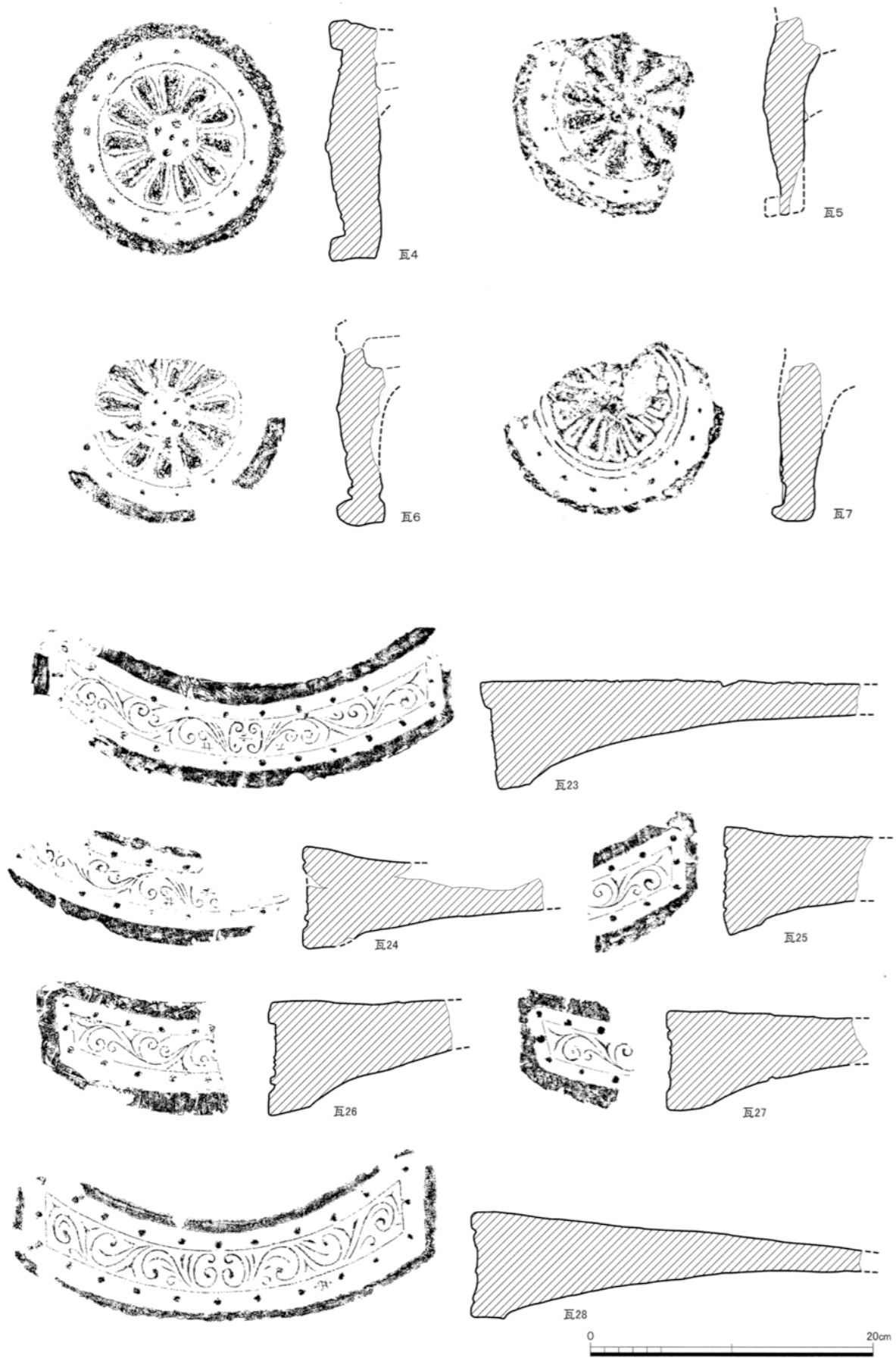


图15 调查14出土平安时代軒瓦拓影・実測図

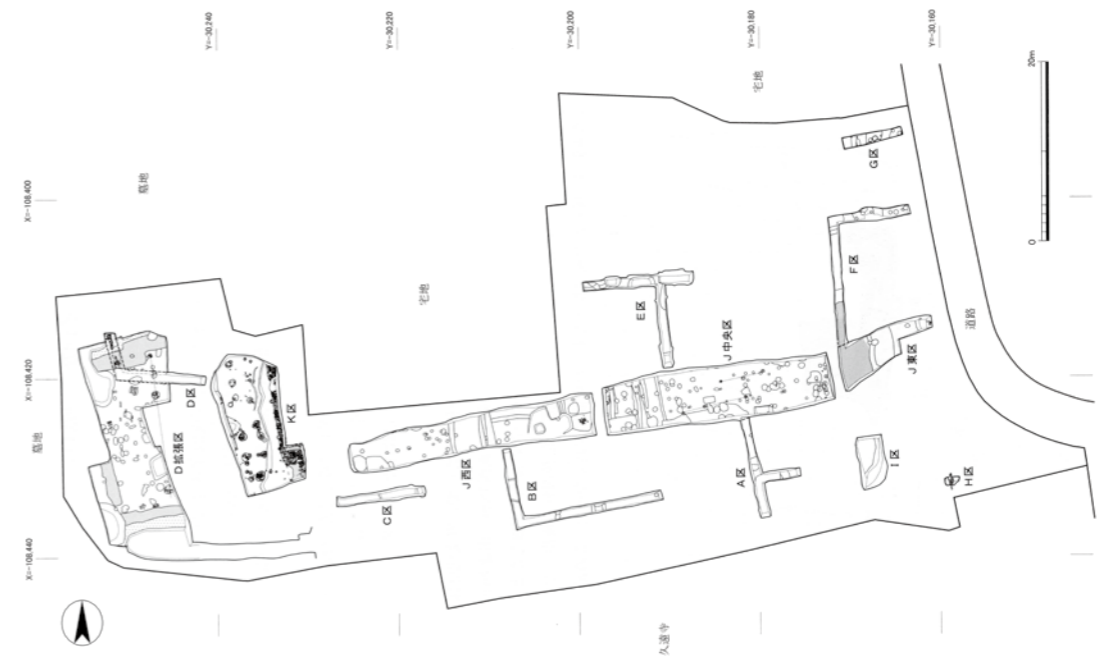


图16 调查16全体平面図

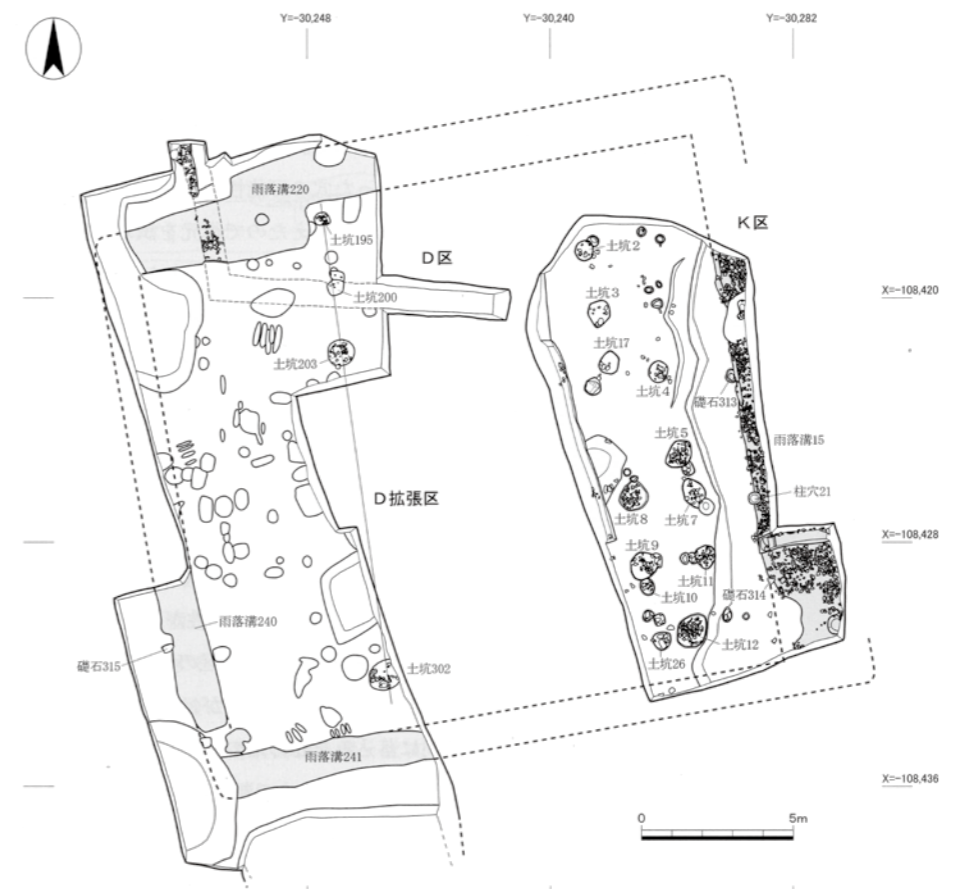


图17 调查16香嚴院建物跡平面図

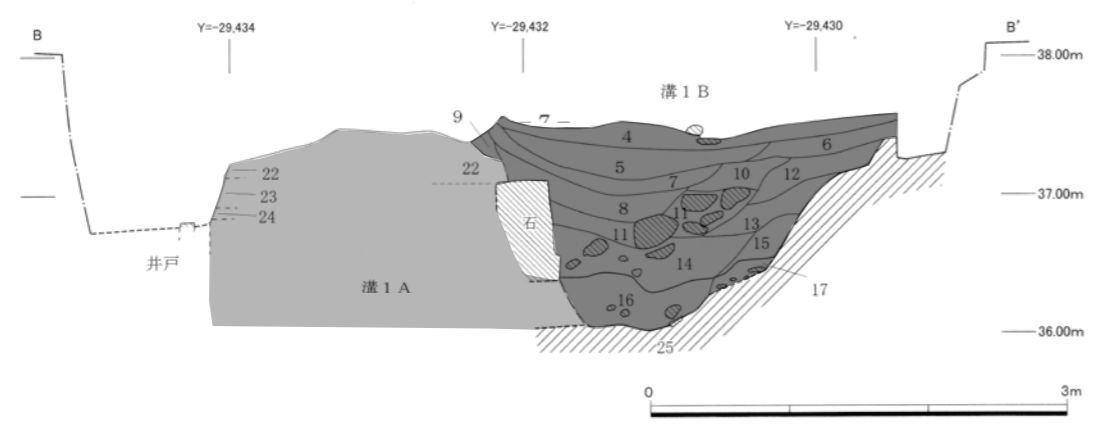
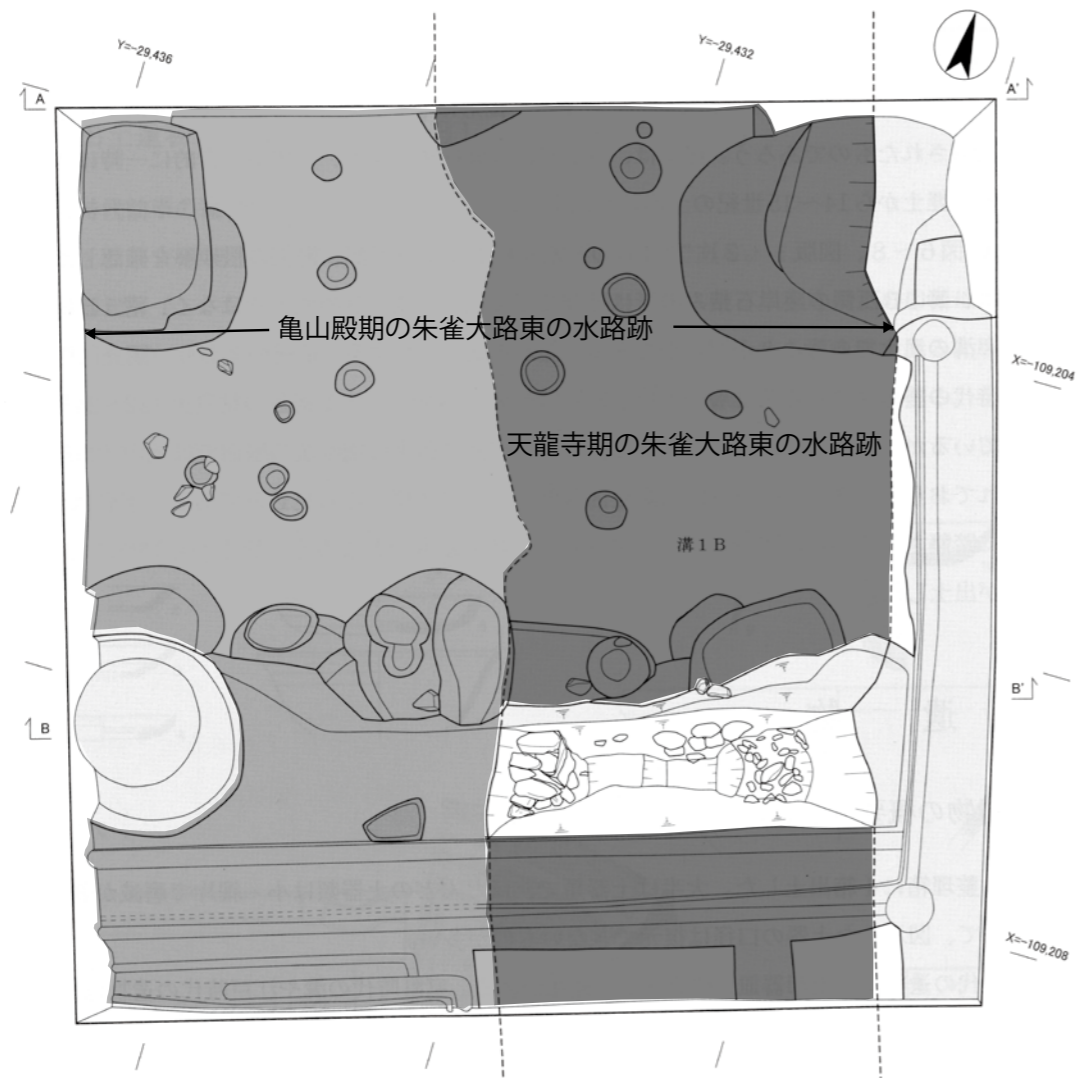


図18 調査18遺構平面図・断面図

